

組立式
御茶室

紙日庵

一帖台目
しじつあん

が教えてくれる



心の揺らぎを整える畳二帖の静寂

豊臣秀吉の草庵茶室復元に携った建築家が贈る

侘数寄建築研究家 三原宏樹

情報化社会に求められる瞑想空間
禅の心は茶ノ湯に通ず
潜在能力を覚醒させる侘数寄建築
畳から伝わるひとと自然の恵み
手間ひまを惜しまず丁寧に暮す
日本の心を暮らしの中へ
心頭滅却し辿る禅への道
日本式マインドリセット
視覚・聴覚・触覚・臭覚・味覚
足裏に集まる末梢神経と接す畳床

豊臣秀吉の名護屋城草庵茶室に通ずる、人の心を共鳴させる極小畳空間。

大航海時代、肥前唐津に実在した世界最大規模の幻の都市、肥前名護屋。
豊臣秀吉はスペイン領フィリピンから来るフェリペ二世の使者を迎える為
千利休に黄金の茶室を造らせた。同時に欧州による植民地政策から日本を守る
為、全国から百六十に及ぶ武将達を、この肥前名護屋の地に集め、秀吉自
ら亭主となり、茶席を設け武将達をもてなした。
欧州列強に立ち向かうべく、日本を守る為にオールジャパン体制を組み、
秀吉と武将達が心を一つにした空間こそが、草庵茶室だった。小さな畳の空
間は、例えお互いが敵対していても、目的を一つに心を共鳴させる不思議な
機能を有する場所だ。

草庵茶室が持つ機能そのまま現代社会へ提供する「紙日庵」

著者 三原 宏樹

株式会社 アルファデザイン代表取締役
NPO法人 まちづくり研究所理事長
NPO法人さが環境推進センター理事長
福岡県小郡市文化財保護審議委員2010～2014
佐賀大学都市工学科非常勤講師 1998～2007

数多くの歴史的建造物修復に携る
JAPAN BRAND 2025究極の住い造り100選出
Danbaul×Styleシステム家具ブランド 主宰

紙
日
庵
が
教
え
て
く
れ
る

『紙日庵が教えてくれる一茶室から未来をひらく和の哲学』は、日本の伝統文化と現代社会の架け橋となる「紙日庵（しじつあん）」という紙製組立式茶室の開発を軸に、歴史・建築・哲学・環境への深い考察を記録した一冊です。

著者・三原宏樹は、佐賀県にて37年間にわたり一級建築士として数々の建築を手がける一方、NPOまちづくり研究所・環境推進センターなど地域社会と深く関わり、多くの歴史遺産の保存活用や環境活動に携わってきました。本書では、そんな著者が豊臣秀吉の草庵茶室の復元設計に関わる中で得た気づき、利休と秀吉の思想に重ねて読み解く「茶の湯」の深層、そしてそれを現代にどう活かすかという提言が詰まっています。

紙製茶室「紙日庵」は、千利休が理想とした侘びの精神と、秀吉が用いた外交ツールとしての茶室の役割を融合し、現代に再構築したユニークなプロダクトです。わずか20分で組み立て可能なこの茶室は、現代人の心を静め、感性を目覚めさせる場として、都会の一角や自宅のリビングにも設置可能です。

また本書には、著者が携わった数々の歴史的建造物の再生活動や、ダンボール素材による家具・システムパネルの開発秘話も綴られており、ものづくりと社会貢献の精神が交差するリアルな体験が紹介されます。山口亮一旧宅の保存活動や、中林梧竹の書を和蝋燭の灯で鑑賞するイベント、世界遺産登録への市民参加活動など、読者の心を打つ実話が満載です。

さらに、紙という素材が持つ循環可能性や、自然素材へのまなざしから導かれる環境メッセージも本書の大きな柱です。日常の中で見過ごされがちな「床」「畳」「足の裏」といった身体感覚を掘り起こし、現代人が失いつつある「感性の再起動」を提唱します。

茶道、建築、環境、歴史、教育、ものづくり、地域社会——
あらゆる角度から「日本人らしさ」と「未来のあり方」を考えるヒントが詰まった一冊。

和の文化を未来に伝えたいすべての方へ。
『紙日庵が教えてくれる』は、あなたの中にある“和の心”を静かに呼び覚まします。